

歴代会長

初代 谷尾
二代 長張 直人

三代 柴田 昭夫
四代 白根 房雄

五代 野澤 房枝（現在）

団地の自治と発展

鷺宮西住宅688世帯は、昭和34年～37年に中野区の西、妙正寺川を南北に挟んで建てられた、東京都住宅供給公社の団地である。鷺宮駅五分の便利さから入居希望者が殺到。当時住人は二千人を超え、子供たちの歓声で満ち溢れていた。しかし団地周辺の環境は極めて悪く、駅への道は雨が降ればドロドロとなり最悪の状態、電話もなく陸の孤島に住んでいるような状態だった。昭和36年自ずと自治会が組織され団地の住環境改善のために、道路の補修、電話の架設、保育園の開設など、中野区や都公社へ要請行動を起こした。

昭和40年代、美濃部都知事の時に雨が降れば濁流となる、妙正寺川の大々的な改修工事が行われ、ウォーキングコースの基となる歩道が出来た。その折に前、柴田会長を中心に公社への働きかけで、東の空き地に第二集会所が完成、将来に渡って自治会の活動の大切な拠点となっている。程なく卓球、美容体操、野球、剣道、バレーボール等がホールで活動を始めてコミュニティーが出来、西中野小・八中PTA等で父母達は多く活躍した。

夏の団地祭りでは子供神輿が練り歩き、公園の模擬店では焼きそば、みそおでん、玩具店など、近隣の方達にも人気があり賑わっていた。若い母親たちは大汗をかいて頑張っていた。西中野小の伝統の鼓笛隊も子供たちは大いに活躍した。白鷺野球チームも良い成績を残し地域で生れた女子ソフトボールで女の子達も活躍した。戦後第二次ベビーブームに生まれ、高校受験で厳しい試練を味わった子供達も昭和50年代には社会人となり活躍している。

団地の変貌と未来

【住人を孤立させない活動の継続】

平成23年、自治会創設50周年を迎え、日頃お世話になっている地域センター職員の皆様や大野町会長が参列して下さり、前途を祝い励ましていただきました。

自治会は社会の変貌と共に活動内容も生活重視の方向に舵を取らざるを得ない難しい時代に入ったと感じました。高齢化が進み年金生活者が多くなり、様々な問題に直面します。公社には常に適切な家賃を。

古い住戸内の改善などを要望。高齢化の対応として、高齢者の触れ合う場所作りを始める。解散した老人会を『土筆の会』として再興する必要もありました。

ふれあいサロンには今、5,60人の高齢者が集り、歓談したり軽い運動、コーラスを楽しんだり、漸く定着してきました。孤独死を防ぐために、都の指導もあって『見守りボランティア』を組織、一人暮らしの20数名をボランティア7人が中心となって見守り活動しています。しかしボランティアも高齢者です。数年前から外国人が20%程度入居しており、ゴミの問題など言葉の不便さもあり悩みが多い現状です。世界の変動が速い現状を高齢者も大いに認識する必要があります。

昨年夏から若い会員の協力があり、日曜日に10時～14時まで（第1, 3）

【カフェ】を始めました。コーヒー100円、カレー500円です。



防災訓練



カフェ